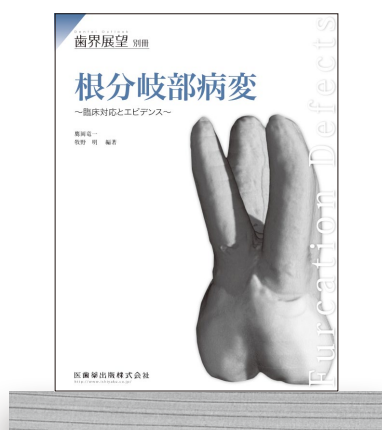


## 根分岐部病変への臨床手法を網羅した一冊！



### 月刊「歯界展望」別冊 根分岐部病変～臨床対応とエビデンス～ 鷹岡竜一・牧野 明 編著

A4判変/168頁 定価：本体 5,800 円＋税  
医歯薬出版（2015年11月）

東京都千代田区・黒田歯科医院  
評・品田和美（歯科衛生士）



日常臨床で根分岐部病変に遭遇する機会は多く、進行にともない磨きにくい部分が露出したり、インスツルメンテーションが困難になったりします。その結果、予後の不安を抱えることにもなります。このような悩みに答える待望の、月刊『歯界展望』別冊「根分岐部病変～臨床対応とエビデンス～」が発刊されました。

本書は、鷹岡竜一先生、牧野 明先生の編著により「根分岐部病変への対応、考え方、必要な知識」が、「可能な限り歯を保存する」ということをコンセプトにしてまとめられています。全3編からの構成となり、I編では「基礎知識」としてまず「根分岐部にかかわる解剖学的特徴」がわかりやすく示されており、歯科衛生士が行う診査やインスツルメンテーションにおいて必見です。続く「根分岐部病変の分類と処置法」では、患者さんの病変の状態を知り、治療方針を理解できるように解説されています。歯科衛

生士としては、歯科医師の治療方針を理解して患者さんに対応していくことが必要です。

II編では、「臨床的アプローチ」として、診断時に注意するエンド・ペリオ病変の鑑別診断、歯根破折、穿孔、力（咬合性外傷）について解説されていますが、どれも忘れてはいけないポイントです。「アプローチの実際」では、「SRPのみ」「FOP」「ファークーションプラスティ」「分割抜根」と違う処置を行った8症例が、上顎編と下顎編とに分かれて提示されています。X線写真の骨吸収像やPPDだけでなく、処置方針の決定要素には歯根形態、有髄歯か失活歯か、隣在歯や対合歯の状態などが加わり、それらを踏まえた治療計画や治療後の経過がとてわかりやすく解説されています。また、紹介されている「SRPだけで改善できる症例」は、SRPの大きな可能性を感じる必見の箇所です。

「根分岐部のインスツルメンテーションと患者指導」の項で、歯科衛生士・山岸貴美恵さんは次のように述べています。「根分岐部といえども他の部位と同様にSRPを行い、できるだけ根面をきれいにしておくことが必要であり、良好な状態で維持していくためには、患者さんのブラッシングが最重要である。そして適切なブラッシングにより根分岐部入口の歯肉が引きしまり、しっかりした歯肉に変わっていく」——根分岐部の状況別に清掃方法もまとめられ、このようにプラークコントロールとSRPの大切さを述べています。

本書は、根分岐部病変の基本的な知識、診断、処置方針の選択、術後の経過からの考察、長期経過症例から教わること、患者指導などが網羅された一冊となっており、現在の臨床手技が一覧できるのはたいへんうれしいことです。チーム医療を考えるために、歯科衛生士、歯科医師、歯科技工士がいっしょに読み合わせをしたい本として推薦します。